

授業科目	言語発達障害Ⅵ (援助法一応用)				
担当者	松下真一郎・他				(オムニバス)
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

- ・ AAC の実際について学ぶ。
- ・ 脳性麻痺児の言語障害の特徴やコミュニケーションの問題点を学習する。また、ボバース概念による言語治療の考え方や評価の仕方を学ぶ。その上で、摂食指導を行っていく上での基本の技術を学習する(実技)(第8～11回)。
- ・ 乳幼児における視覚・聴覚・体性感覚の統合の重要性を踏まえ、身体運動の必要性を考察する。更にその問題構制を自閉症スペクトラムに敷衍して考察する。

## ■ 到達目標

1. AAC の適用について判断できる。
2. 脳性麻痺児の言語障害やコミュニケーションの問題、食事の問題点を知る。そして、それに対する援助方法を知り、理解する。また、実際に指導を行っていく際の食べさせ方、飲ませ方、咀嚼を促す方法などを習得する
3. 新たな視点から言語発達障害を捉え直し、その理解を拓げる。

## ■ 授業計画

- 第1回 マカトンサイン, サウンズ&シンボolz AAC 概論 (講師非公表)
- 第2回 マカトンサイン, サウンズ&シンボolz 理論 (講師非公表)
- 第3回 マカトンサイン, サウンズ&シンボolz 演習 (講師非公表)
- 第4回 マカトンサイン, サウンズ&シンボolz 当事者に來ていただき演習 (講師非公表)
- 第5回 マカトンサイン, サウンズ&シンボolz 当事者に來ていただき演習 (講師非公表)
- 第6回 日本版 PIC シンボolz の概要、指導方法 (講師非公表)
- 第7回 シンボolz を使ったコミュニケーション指導の事例 (講師非公表)
- 第8回 脳性麻痺児の言語障害概論(口腔機能の正常発達も含めて) (講師非公表)
- 第9回 脳性麻痺児のコミュニケーションの問題と援助 (講師非公表)
- 第10回 ボバース概念による評価と治療 (講師非公表)
- 第11回 摂食指導について(実技練習) (講師非公表)
- 第12回 乳幼児における視覚・聴覚・体性感覚の統合の重要性(松下)
- 第13回 乳幼児の視覚・聴覚・体性感覚の統合における身体運動の必要性(松下)
- 第14回 自閉症スペクトラムにおける視覚・聴覚・体性感覚の統合(松下)
- 第15回 自閉症スペクトラムにおける身体運動の必要性(松下)

## ■ 評価方法

筆記試験100%

## ■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

- ・ AAC に関する書籍に目を通しておくこと
- ・ 脳性麻痺児・者に対する関わりについて知識を整理しておくこと
- ・ コミュニケーション・言語に関する書籍に目を通しておくこと

## ■ 教科書

なし

## ■ 参考図書

書名：言語聴覚士のための AAC 入門

著者名：知念洋美

出版社：協同医書出版

書名：言語聴覚療法シリーズ12 言語発達障害Ⅳ

著者名：笠井 新一郎

出版社：建帛社

## ■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

## ■ 講義受講にあたって